

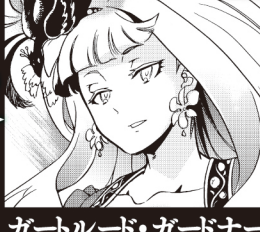
人物相関図

ディーバ商会



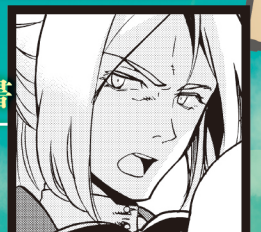
ハリエット・リー
ガートルードの護衛。女とは思えない剣の腕。「強いやつと戦いたい」とかいふ少年漫画みたいな戦闘動機を持つ。

護衛



ガートルード・ガードナー
植物採集の依頼を受けるディーバ商会の上級社員。頭脳明晰で仕事至上主義だが優雅にこなしていく。ノアの雇い主。

秘書



ロジナルド
ガートルードの秘書。オカマ。10代は守備範囲外だがノアに好意を寄せている。

いつか戦いたい!

雇用

好き♡



イヴ・エトリック

15歳。美しい故郷の森を、ある植物採集家に燃やされてから、植物採集家を忌み嫌う復讐を誓う。現代文明オンチ。弓矢の達人で猿のような身のこなしっぷり。

故郷のカタキ

ラジャー

ノアの助手兼護衛。23歳。兄貴兼お母さん。元海賊。剣の腕は天才的。身体能力は高いが、頭が良いとは言えない。先代、ノアの父・ブラッドの助手も務めていたが、命を守れなかったことを悔いている。

ノア・レスコット

ディーバ商会の植物採集家。16歳。植物以外のことに関しては無頓着で無愛想。典型的なヤリっ子。「起源追想」という特殊能力を持つために15年間レスコット家の温室に閉じ込められていた。

主従

元・主従



ブラッド・レスコット
ノアの父。植物採集家として常に世界中を飛び回っていた先で、子供だったラジャーを拾い教育を施す。レスコット家の温室にいる息子・ノアに植物を送っていた日々を送る中、何者かに暗殺される。

息子



リンドリー・アスカム
レスコット家と本流を同じくする、採集一族アスカム家の次代頭主。脱力系エセ紳士。ノアを良く思っていない。

主従

インディラ
リンドリーに心酔している。クロスボウを操る少女

ロレンス
リンドリーに雇われている屈強な男

レスコット家

アスカム家

敵対

目指したのは「世界名作劇場」と「冒険少年漫画」の融合です。「19世紀植物採集家」はまさにうってつけの題材でした。史実とファンタジーを混ぜながら形になったのが今作です。求めたエンタメに仕上がったと思います!ぜひ読んでみてください!

橋本花鳥

はじめまして



キミはどこから来たの?

PROFILE 橋本花鳥

別名義にて『週刊少年サンデー超』(小学館)にてデビュー、連載。週刊連載マンガのアシスタント、読み切り掲載などを経て『デザート・ライオット(全3巻)』(幻冬舎コミックス)を刊行。後に、自身のサイトにてWEBマンガ『虫籠のカガステル』(橋本チキン名義)を7年間に渡り連載。同人誌でも人気を博し、2014年フランスにて刊行し重版も。2015年に、フランスにて主催されているマンガ賞「Prix Mangawa」にて少年漫画部門を受賞。現地のの学校や図書館にて推薦図書として扱われている。

今、ここに在る理由

担当編集/格闘司書

形あるものにはすべて経緯と理由がある。そう気付かせてくれたのが『アルボスアニア』という作品。植物の種が陸を越え、風に乗れ、海を撫で、この場所を選んで根を張る。その尊い旅の記憶を知ることが出来る主人公・ノアは、植物たちから世界が広いことを教えてもらい、外の世界へと踏み出した。

今から三年ほど前、私がまだ漫画の編集になって間もないころ、同人誌即売会の会場にて一般のブースとは明らかに異なる、本を何冊も高い平積みで並べているサークルを見つけた。同人誌で長編を読んだことがなかった、という軽い気持ちで立ち読みをした。それが橋本花鳥先生の作品に初めて触れた瞬間だった。あの高揚感、今でも忘れられない。初めて漫画編集として「一緒に漫画を作りませんか?」と声を掛けた漫画家でもあった。

当時、自身のサイトにて『虫籠のカガステル』の連載をしていた最中だったので「もちろん、この連載が終わったら」と話をさせていただいた。彼女はとても真摯に私の拙い話を聞いてくれた。まっすぐに人の目を見る方だな、というのが第一印象。その印象は作品にも顕著に表れている。とてもまっすぐに、キャラクターたちへ愛情を注ぎ込み物語を紡ぎ出している。それが最大の魅力だと断言できる。

一番難航したのは題材選びだった。橋本先生と何度目かの食事をしながら、ふと店の外でそよんでいた一本の木が視界に入った。ご自身でもハーブなどを育てていることを思い出し、私は「プラントハンター」という職業を知っていますか?」と切り出した。

失くしてしまった大事なジグソーパズルの1ピースが見つかった。お互いにくらり来た手応えを感じる。それから、橋本先生による植物へのあくなき探求はすさまじく、知識を得る度に、水を欲していた花のように咲き誇り始めた。今ではすっかり植物博士である。

登場人物たちが魅力的な理由として、ノアは植物が、ラジャーはノアの父が、イヴは故郷が好きである。好きというものは何よりも強い。好きだから身を呈しても守りたい、大事にしたい。橋本先生は漫画が好きで、植物が好きである。おそらく担当編集である私が想像するよりも大好きだ。だからこそ、この漫画が面白いのだと胸を張れる。

この作品が、一人でも多くの手に届きますように。

二〇一五年六月某日